

2023年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

- 2023年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方を記述し、2024年度7月自己点検・自己評価委員会で確認した。
- 2024年度第2回学校関係者評価委員会で報告予定。
- 新規課題にはアンダーラインを引いて掲載した。

大項目	中項目	2023年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○TPCの育成については、より一層学生の対話力が身につくような教育を望みたい。(2023年度総評) ○TPCの評価を定量的に判断できる指標が必要と感じる。(2023年度総評)	新規	校長	■コロナ以前の学生活動、アクティブラーニング、グループワーク等の集団活動が可能となった。しかし以前に、TPCの基礎となるコミュニケーション力がコロナ前の水準に復することが最優先である。 ■①外部評価、②自己評価と2つの方法があるが、入学前の自己評価と卒業時のそれとを比較する試みを検討していく。
1 教育理念・目的・育成人材像	(2)育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○技術・技能・知識を身につけて、医療関連・介護関連のスタッフとして十分力を発揮し、自立できるような学生を育ててほしい。(2023年度総評)	新規	医療秘書科	■学生自身が医療現場で求められる人材に成長していることを実感できるようなカリキュラムの策定を、随時行う。 ■専門知識・技能の習得と並行し、1年次からキャリア教育・社会人化教育をベースとした指導を目指す。
			新規	医療事務IT科	■【医療事務】と【IT】の最新の専門知識や資格を身につけ、医療ITのスキルを活かして病院の未来を担う人材を育成するためのカリキュラムが用意されている。卒業までに段階的にステップアップできるようサポートし、卒業後も目的をもって成長できるような指導を心がけている。
			新規	診療情報管理科	■診療情報管理士の専門知識や関連する資格を身につけ、そのスキルを活かして病院の未来を担う人材を育成するためのカリキュラムが用意されている。卒業までに段階的にステップアップできるようサポートし、卒業後も目的をもって成長できるような指導を心がけている。
			新規	くすり・調剤事務科	■健康・美容に関する幅広い知識・技術を身につけることにより、様々な分野で活躍できる人材の育成を目指す。 ■資格取得に必要な知識だけでなく、働くうえで求められる応対方法や実技なども身に付けることができるよう、カリキュラムの策定を実施する。 ■実習を通じて職種に関する理解を深めることにより、職業観を育成し就職後のミスマッチを減少させる。
			新規	介護福祉科	■教育目標を到達するために、2022年度入学生から、学生が自ら考え行動できるようになることを4つの課題に整理し、ディプロマポリシーとして掲げてカリキュラムを再構築し実践している。その成果は教育課程編成委員会で報告し承認を得ている。 ■今年度は、前年度以上に一人でも多くの学生が課題を達成できるよう、学習支援に取り組む。具体的には、学力差、日本語能力差を超えて学習意欲を引き出す授業設計とカリキュラムの改善を行う。
			新規	看護科	■3年間の教育で目指すところは多様な価値観と生き方をもつ対象を総合的に捉え健康の維持増進に向けた看護実践できる基礎的能力の育成である。授業や校内実習・臨地実習を繰り返しながら学んでいる。その過程において患者・家族だけではなく他の学生との意見交換や現場で指導に関わるスタッフとの連携も必要である。このような体験を通してコミュニケーション能力の育成を語りながら取り組んでいる。
	(4)社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	○外国人の支援や社会人の学び直しについては、引き続き社会のニーズを的確にとらえ、先を見越して運営することが望まれる。	継続	校長	■さまざまなチャネルを通じて、社会の学びに対するニーズを把握するため、学内はもとより学外(業界団体)へのネットワークを強化している。
3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○在学中に社会人としてのコミュニケーションスキルが身につくような授業の仕組みづくりに期待したい。	継続	医療秘書科	■講義科目・演習科目において、学習効果が期待できる場面では積極的にグループワークを取り入れ、学生が役割を持つことから主体的な取り組みを引き出すことを目指す。 ■学校行事、学科イベントを通し、相手を思いやる気持ちを表現できるよう、教員は支援的な関与を心がける。

			継続	医療事務 IT科	<ul style="list-style-type: none"> ■授業の中でグループワークやディスカッションを取り入れ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを学んでいる。 また、他者と適切なコミュニケーションをとり、良好な人間関係を築くために必要な要素を学んでいる。
			継続	診療情報 管理科	<ul style="list-style-type: none"> ■授業の中でグループワークやディスカッションを取り入れ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを学んでいる。 また、他者と適切なコミュニケーションをとり、良好な人間関係を築くために必要な要素を学んでいる。
			継続	くすり・ 調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■各授業の状況に合わせペアワークやグループワークを段階的に取り入れ、他者とのコミュニケーションや意見交換ができる機会を確保するように授業担当教員に依頼している。
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■学習活動の基盤を「認め合う」「助け合う」「成長し合う」言動の実践とし、アクティブラーニングを継続する。 ■学習活動は「やってみる」「考える」「わからないままにしない」「確かめる」ことの習慣化を目指す。 ■学びを楽しめる学習体験となるよう改善する。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■1年次後期の科目に人間関係論Ⅰ・Ⅱを設定し人間関係の構築について学ぶ講義を設けている。他の科目においても授業の学びを深めるためにグループワークなどにおいて自分と他者の関係を感じながら学び体験する機会がある。特に臨地実習では患者との関係や指導者・及びチームを意識したコミュニケーションが必要な場が多い。その過程で自己のコミュニケーション力の課題を認識し学生自身も課題に向けて前向きに取り組めるような支援に取り組んでいる。
		○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立つと言われている。引き続きの取り組みが望まれる。	継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■物怖じせずに自己表現ができるよう、1年次から発表の機会を設ける。ペアワークから始め、クラス全体へのプレゼンテーションができるよう、授業やキャリアサポートプログラム、学校行事をスキルアップの場として活用し、段階を踏んだ取り組みを意識していく。
			継続	医療事務 IT科	<ul style="list-style-type: none"> ■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。
			継続	診療情報 管理科	<ul style="list-style-type: none"> ■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。
			継続	くすり・ 調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■授業内において個人やグループで発表をする機会を設けており、クラスメイトや教員からフィードバックを得ることにより内省や気づきの機会となっている。
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■2年間の学習活動の集大成として、ケーススタディ発表会を毎年実施している。今年度は、発表会参加者(招待者)の数を増やし、より多くの多様な人たちの前でプレゼンテーションができるよう、環境を整える。 ■ケーススタディをやり切るための学習活動として、「調べ学習」「体験学習」「考察学習」「創作活動」等を各科目の授業で繰り返し、発表(表現)する機会を日常的に設けることで実践力を高める。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■臨地実習は学生個々に体験も異なり学びもそれぞれに異なる事が多い。個々の体験をカンファレンスなどで伝える機会を通して自己の考えを述べられるように支援している。更にクラス全体で討議し意見交換を行う機会を設け自分あるいはグループの考えを発表する経験が出来るように取り組んでいる。また、カンファレンスなどは他者の意見を聴く事も重要であり自己だけでなく他者の考えを聴く事や司会進行などの役割を担う機会により成長につなげている。
	5.教員・教員組織 (2)教員の資質 向上への取組	○授業公開は、兼任講師の参加について、さらなる拡大を期待している。	継続	教務委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■前年度に引き続き、兼任講師が行う授業は基本的に参観できるように実施しており、授業方法や内容などを取り入れ、授業の質向上を目指している。また、兼任講師についても自由に参観できる旨の案内を行っている。
4 学修成果	2. 資格、免許の 取得率	○資格・検定取得は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■各学科で、年度初めに学科運営計画を策定し、中間点検、年度末点検を実施している。検定対策講座やアプリの導入等、各学科の教育に沿った対策を講じていく。
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、一部科目については進度別クラス編成を継続する。 ■2年次後期の検定にも挑戦できる科目配置にしており、検定上位級の受験者数を増やし伸び残しのない指導を継続する。

			継続	医療事務 IT科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。ITパスポートの取得を目指し入学時より段階的に知識を増やしてゆく。
			継続	診療情報 管理科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。診療情報技師能力検定の取得を目指し、卒業後も勉強を続けてゆけるようにサポート体制を整える。
			継続	くすり・ 調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科が目標として掲げている資格や、さらに上位級に挑戦するように動機づけを行う。 ■学生が自身の成長や苦手な箇所を認識できるように問題演習の点数を継続的に計測し、その結果に基づいたアドバイスを実施する。 ■業界関係者から意見を頂戴し、学習意欲が高まるようカリキュラムを見直す。
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■国家試験合格率・資格取得率100%を目指す。 ■今年度も例年通り、資格取得率や国家試験合格率を公表し、その成果を発信する。 ■特に国家試験合格率は、前年度の実績を上回るよう、個別の学習支援方法、とりわけ外国人留学生への学習支援方法を改善する。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■3年間で必要な単位を修得し卒業学年で看護師国家試験を受験しその結果看護師の資格取得が可能である。そこに向けて1年次から看護師国家試験に向けて試験の傾向と対策に取り組んでいる。また学内だけではなく業者模試を受験し実力を把握しながら支援に取り組んでいる。受験後は振り返り自分の弱点对策をしている。卒業学年である3年次は学生を少数に分け各教員が個々の学習サポートに取り組んでいる。
	3. 卒業生の社会的評価	○多くの卒業生を業界に輩出しており、高い評価を受け活躍している人材も多くいると思うので、それらの人材情報の把握と今後のそれら人材との連携に期待したい。(2023年度総評)	新規	CSC	<ul style="list-style-type: none"> ■卒業生の状況については、実習訪問時や年度末の就職先訪問時、また就職先の来校時に確認を行っている。また卒業生キャリア報告会といった卒業生の来校の機会を捉えた個別の確認も行っている。今後それらを活用し、在校生の就職の支援活動や広報活動に協力を求め一層の連携を図っていきたい。
5 学生支援	2. 中途退学への対応	○入学後の手厚いサポート等、退学防止の取り組みに努めてほしい。(2022年度総評)	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■入学後から担任による全学生の面接を実施し、入学動機や家族、悩み等を確認している。引き続き、保健室やカウンセラー、担任との連携を強化し、退学防止に取り組んでいく。
			継続	学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■引き続きクラス担任、教員、保健室、カウンセラー等、協力体制を強化し、毎月情報共有をしながら退学防止に取り組んでいく。 ■サークル活動を活性化させたり、学校行事(体育祭や学園祭)に積極的に関わらせたりして、学生の居場所づくりを行う。 ■7階演習室を「個人スペース」として、一人の時間を過ごせる場所を提供する。
	4. 学生生活	○今は、在籍している学生も多様化してきている。学力の幅も広く、メンタルに問題のある子どもいる中で、教育にどれだけ真剣に取り組めるかが学校の存在意義として問われる。一人一人に寄り添って、全員を就職させるような教育を今後ともやっていただければと思う。(2023年度総評)	新規	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■本校が行っている職業教育は、就業することを第一目的としている。学生の多様化も進んでいるが、担任、カウンセラーが連携しながら退学を防止し、またキャリアサポートセンターと担任がタッグを組み、高い就職志望率と就職決定率を可能な限り100%に近づけるよう取り組んでいく。
			新規	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■担任は5月中を目途に学生との個人面談を行い、学習意欲や自己の成長を妨げる要因がないか、丁寧なヒアリングを行う。必要に応じ、保護者や学生相談コーナー、保健室、合理的配慮検討委員会等と連携を取り支援を行う。
			新規	医療事務 IT科	<ul style="list-style-type: none"> ■入学前の提出書類や面談記録などから学生を知るように努力している。また入学後の早い段階より、全学生と面談を実施し、状況を共有、全教員で学生を見守る体制をとっている。トラブルか、またはトラブルになりそうな場合には、速やかに各部署に連絡、保護者やカウンセラーの意見、協力を仰ぎながら、適切な対応を行うよう努めている。
			新規	診療情報 管理科	<ul style="list-style-type: none"> ■入学前の提出書類や面談記録などから学生を知るように努力している。また入学後の早い段階より、全学生と面談を実施し、状況を共有、全教員で学生を見守る体制をとっている。トラブルか、またはトラブルになりそうな場合には、速やかに各部署に連絡、保護者やカウンセラーの意見、協力を仰ぎながら、適切な対応を行うよう努めている。

			新規	くすり・ 調剤事務科	<p>■各期ごとに担任が面談を実施し、学生の状況把握に努めている。兼任講師とも欠席や授業の様子などを共有し、気になる学生については都度面談や家庭への連絡を実施する。</p> <p>■就職活動においては、キャリアサポートセンターと共に各学生の状況に合わせた支援を行い、希望者全員の就職を目指す。</p>
			新規	介護福祉科	<p>■クラス担任による個人面談を、定期及び臨機応変に実施し、学習面・生活面・経済面・心理面等の理解に努める。</p> <p>■クラス担任に一任ではなく、状況により学科として検討し、学生の潜在能力が引き出され、成長発達に繋がるよう、粘り強く最適解をつくっていく。</p>
			新規	看護科	<p>■各学年2人担任制とし学生に細やかに目が行き届くように配置している。また、全員対象に前期と後期に面談を実施し個々の状況を把握している。学科教員会議で学年報告の場を設け全教員で必要な事は共有している。また面談記録を残し、3年間継続した関りが出来るように取り組んでいる。更に必要時は個人面談を行い個々に対応を行っている。実習等において問題が生じた場合は保護者に連絡し状況を共有し必要時は専門医のアドバイスなどを受け対応を検討しながら取り組んでいる。</p>
			新規	CSC	<p>■キャリアサポートセンターでは幅広いレベルの学生に対し、それぞれに合った個別の指導を徹底している。特に面接指導においては、ここ数年、個人のレベルに合わせた個別の面接指導を重視した指導を行っており、今年度も一層強化していきたい。</p>
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	<p>○高校における専門学校の理解や認識が必ずしも進んでいない。学科ごとに、仕事内容、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供をもっと工夫してほしい。</p> <p>○仕事の魅力や就職率の高さをいかに高校教員や保護者に発信していくかが大事である。 (2023年度総評)</p>	新規 ／ 継続	広報室	<p>■首都圏の重点校を中心に高校訪問を行い、本校の特徴を理解してもらうとともに、卒業生情報を提供して信頼関係の構築をはかっていく。また、昨年度の募集活動を検証してアピールすべき情報を精査し、本校の強みである就職の強さと業界からの高い評価のほか、医療・福祉分野の仕事の魅力を訴求していくよう心掛ける。</p>
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	<p>○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。</p>	継続	事務局長	<p>■SNSにおける、個人情報、プライバシーの保護、守秘義務の徹底に関して、学生、教職員への注意喚起を行う。</p> <p>■各学科の実習指導において十分な指導が図られているか確認する。</p>
			継続	学生委員会	<p>■個人情報の取扱いについて本校のポータルサイトに掲載するだけでなく、年間を通してメール配信等で随時注意喚起をする。</p>
10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	<p>○ボランティア活動は人材育成の観点から有意義なものであるため、さらに仕掛けを工夫して奨励してほしい。</p>	継続	校長	<p>■学校に依頼の来るボランティアだけでなく、より関わりやすくするため、まずは教職員が活動を開始し、徐々に学生を巻き込んでいくよう活動していく。</p>
		<p>○ボランティア活動について、ぜひ学校を挙げて進めていただきたい。(2023年度総評)</p>	新規	学生委員会	<p>■学校のある高田三丁目の町会との連携や、近隣の介護福祉施設と連携し、ボランティア活動に協力する。留学生の異文化交流や、学生に社会貢献の在り方を理解させるなど、ボランティア活動を通して学業とは別の角度で教育を行う。</p>